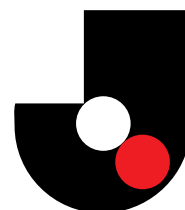


J.LEAGUE Official News Letter vol. 108 7.Oct.2004

NEWS



J.LEAGUE

編集・発行
社団法人日本プロサッカーリーグ
ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

Amazing J.

スポーツで、もっと、幸せな国へ。 Jリーグ百年構想



© J.LEAGUE PHOTOS

川崎F、5年ぶりのJ1昇格

Jリーグディビジョン2 (J2)は9月26日、各地で第36節第1日の5試合を行い、勝つか引き分ければJリーグディビジョン1 (J1)への昇格が内定する川崎フロンターレは2-1で水戸ホーリーホックを破り勝点87をマーク、2位の大宮アルディージャの勝点63、3位のモンテディオ山形の同60を押さえ史上最速の、8試合を残してのJ2の2位以内を決めた。昨年、勝点1差で3位に終わり惜しくも昇格を逃した川崎Fにとっては2000年以来5年ぶりのJ1昇格が内定した。昇格はJ2リーグ戦終了後のJリーグ理事会で正式承認される。

ここ2試合不本意な内容のゲーム展開だった川崎Fは、この日も水戸の粘りに苦しみ、26分にマルクスのシュートで先制したが、47分には同点に追いつかれた。しかし71分に再びマルクスがフリーキックを直接ゴールにけり込んで勝ち越し、自力での勝利をつかんだ。

今季の川崎Fは第8節から第14節まで7試合連続完封勝ちを収め、さらにホーム16連勝をマークするなど快進撃で抜群の強さをみせた。

J.League Official Sponsors

Calbee

Canon

SUNTORY

JOMO

NicoS

LAWSON

KONAMI

Network Partner

NTT東日本 / NTT西日本

League Cup Sponsor

ヤマザキナビスコ

Jリーグ百年構想

パートナー
朝日新聞

CONTENTS

川崎F、5年ぶりのJ1昇格.....1
2、3位狙って大混戦のJ2／浦和がトップを走るJ1.....2
2004Jリーグヤマザキナビスコカップ ベスト4決まる.....3
2003年度Jクラブ情報開示.....4-5
TOPICS 浦和レッズ、埼玉スタジアム2002をホームスタジアム追加登録／「2005オールスターサッカー」は大分で開催／Jリーグ選手協会とサッカー

スクールを共催／ジェフユナイテッド市原「ふれあいフットサル大会」を後援／「J FLAG 2005」を後援／JFA懲罰基準改定の適用／各地で芝生開き、サッカー教室／全国ホームタウンサミットin川崎開催.....6
USスポーツビズ2004.....7
VOICE FIFAとドーピング 大畠襄.....8

2、3位狙って大混戦のJ2

今季のJリーグディビジョン2(J2)は川崎フロンターレが抜群の強さでJリーグディビジョン1(J1)昇格を内定したが、2位以下は大混戦。第36節を終了して7位のベガルタ仙台までが激しい争いを展開している。

Jリーグは来年、J1チームを16から18に増やすのに伴い、J2の2チームを自動的に昇格させ、J2の3位のチームはJ1の年間最下位チームと入れ替え戦を行う特別の措置がとられている。このため各チームは3位以内を目指して序盤戦から熱のこもった試合が行われてきた。

昨年、勝点1差で3位に終わった川崎Fは、今季監督にJ1の鹿島アントラーズから関塚隆氏を招き、戦力的にも大幅に補強してスタートから独走態勢を築いた。川崎Fは第36節で2位以内を確保したが、残る自動昇格枠「1」、入れ替え戦枠「1」を目指して大宮アルディージャ、モンテディオ山形、京都パープルサンガ、ヴァンフォーレ甲府、アビスパ福岡、仙台の6チームが8試合を残して勝点13の差でひしめいている。特に2位争いは目まぐるしく、第10節では独走した川崎Fに次いで2位だったのは福岡、第15節は山形、第20節は福岡、第25節は甲府、そして第35節は大宮と入れ替わっている。昨季までJ1だった京都や仙台も1年での復帰に燃え、大宮、山形、



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

甲府は初のJ1に意欲的。福岡も底力を秘めており、最後の最後まで予断は許さない。今季ほどJ2から目の離せないシーズンはないだろう。

浦和がトップを走る J1

Jリーグディビジョン1(J1)2ndステージは9月26日に第7節を終了した。

この時点で首位に立っているのが、6勝1敗と好調な浦和レッズだ。エメルソン、田中達也らの攻撃陣がスピードにあふれたエキサイティングなプレーを展開し、7試合で23点という破壊力を発揮している。エメルソンは18試合で19得点と得点ランキングのトップだ。

2ndステージ開幕から4連勝したガンバ大阪は、第7節の浦和戦1-2と敗れ、勝点1差でジェフユナイテッド市原に次ぐ3位。史上初

の2年連続両ステージ制覇を目指す横浜F・マリノスは、4位につけている。

J2との入れ替え戦に出場する年間成績16位を回避しようとする戦いも、そろそろ気になる時期に入ってきた。



© J.LEAGUE PHOTOS

FC東京、東京V、名古屋、浦和

2004 Jリーグ
ヤマザキナビスコカップ

2004 Jリーグヤマザキナビスコカップ ベスト4決まる

2004 Jリーグヤマザキナビスコカップは9月4日、準々決勝の4試合が行われ、FC東京、東京ヴェルディ1969、名古屋グランパスエイト、浦和レッズが準決勝に進出した。今季は準々決勝、準決勝とも1回戦制。結果的には、予選リーグで1位となったチームがそれぞれ進出した。

準々決勝はいずれも、雨の中での試合となった。東京・国立競技場で行われたF東京対ガンバ大阪の試合は、激しい雨とピッチの状態を考慮して、キックオフが16分間延期されたほどだ。G大阪の先制で始まったゲームは、前半終了間際に同点としたF東京が、後半に3点を奪って4-1の快勝。

東京V対清水エスパルスも、雷雨の影響で後半の開始が20分ほど遅れた。1-1のまま延長戦に入った試合は、104分のVゴールによって東京Vに軍配が上がった。

昨年のナビスコカップ優勝チームである浦和は、同じくJリーグ王者の横浜 F・マリノスの攻撃をかわして3-2の勝利。

名古屋は試合終了直前、PKを与えるピンチがあったが、鹿島アントラーズの失敗に救われ2-1で逃げ切った。

決勝は11月3日(水・祝)に国立競技場で開催されるが、その出場権を懸けた10月9日(土)の準決勝は、F東京対東京V、名古屋対浦和の組み合わせ。前者は言うまでもなく東京に本



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS



© J.LEAGUE PHOTOS

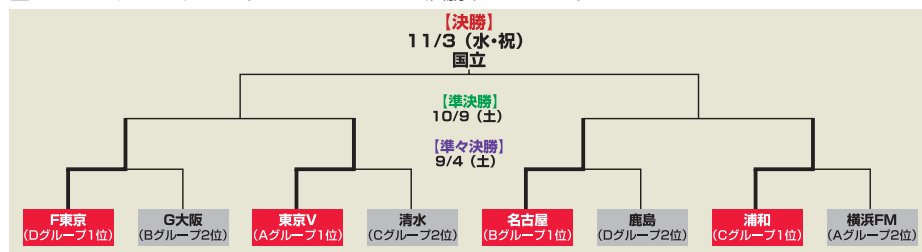
拠を置くチーム同士、後者は赤をチームカラーとするチームの対決だ。

F東京は5年ぶり2度目の準決勝進出で、初の決勝進出、Jリーグで初の公式タイトルを目指す。これに対し東京Vは8年ぶり5度目の準決勝進出で、大会がスタートした1992年から3連覇、1996年にも準優勝の成績を収めている。両チームは今季のJリーグ1stステージ、

2ndステージで対戦しており、F東京が3-2、1-0と接戦をものにしている。

一方、名古屋の準決勝進出は3年ぶり6度目。過去5回は鹿島アントラーズに2度、清水エスパルス、柏レイソル、横浜 F・マリノスに敗れている。浦和は3年連続3度目の4強入り。昨年は初優勝を飾っており、タイトル防衛を狙う。

■ 2004 Jリーグヤマザキナビスコカップ 決勝トーナメント



※表の左側のチームがホーム試合となる。

■ 過去の成績

	1992	1993	1994	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	受賞歴
F東京							3位					◆優勝：0回 ◆準優勝：0回
東京V	優勝	優勝	優勝	準優勝								◆優勝：3回 ◆準優勝：1回
名古屋	3位				3位		3位	3位	3位			◆優勝：0回 ◆準優勝：0回
浦和										準優勝	優勝	◆優勝：1回 ◆準優勝：1回

※1995年は開催せず。



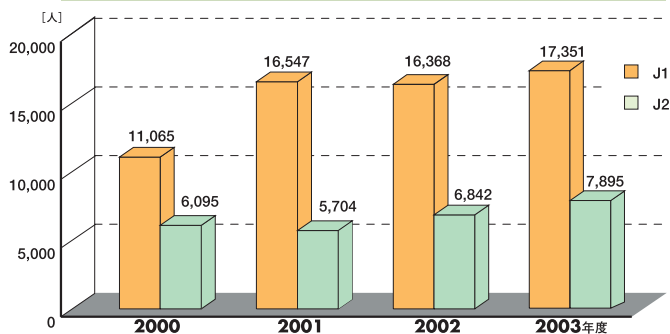
© J.LEAGUE PHOTOS

2003年度Jクラブ情報開示

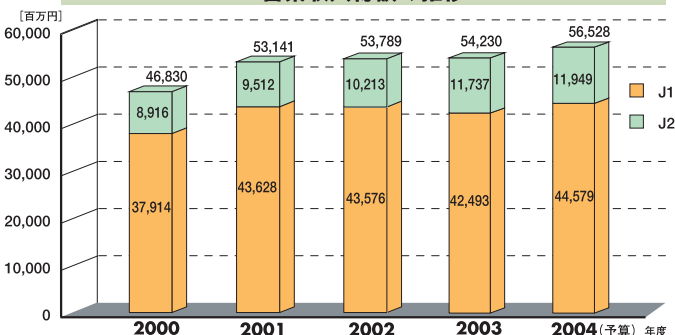
観客者数

2003年平均観客者数		2002年平均観客者数	
【J1】(ホーム各15試合、全体240試合)		【J1】(ホーム各15試合、全体240試合)	
仙台	21,708	札幌	19,140
鹿島	21,204	仙台	21,862
浦和	28,855	鹿島	21,590
市原	9,709	浦和	26,296
柏	10,873	市原	7,897
F東京	24,932	柏	11,314
東京V	17,563	F東京	22,173
横浜FM	24,957	東京V	15,128
清水	16,284	横浜FM	24,108
磐田	17,267	清水	14,963
名古屋	16,768	磐田	16,564
京都	10,850	名古屋	16,323
G大阪	10,222	京都	10,352
C大阪	13,854	G大阪	12,762
神戸	11,195	神戸	10,467
大分	21,373	広島	10,941
平均	17,351	平均	16,368
合計	4,164,229	合計	3,928,215
【J2】(ホーム各22試合、全体264試合)		【J2】(ホーム各22試合、全体264試合)	
札幌	10,766	山形	3,755
山形	4,370	水戸	2,739
水戸	3,085	大宮	5,266
大宮	5,058	川崎F	5,247
川崎F	7,258	横浜FC	3,477
横浜FC	3,743	湘南	4,551
湘南	4,731	甲府	4,914
甲府	5,796	新潟	21,478
新潟	30,339	C大阪	7,952
広島	9,000	福岡	6,491
福岡	7,417	鳥栖	3,890
鳥栖	3,172	大分	12,349
平均	7,895	平均	6,842
合計	2,084,185	合計	1,806,392

2000～2003年1試合当たりの観客者数平均の推移



営業収入総額の推移



Jリーグはクラブの経営の透明性を継続するため昨年に続き2003年度の経営状況を発表した。

J1の1クラブ当たりの平均営業収入は28億3300万円(前年度比4%増収)、J2は9億7800万円(前年度比14.9%増収)であった。クラブ別売上高規模分布表で見ると20億～30億円の規模に27クラブ中10クラブが集まり、底上げ傾向は続いている。この売上高増加傾向を受けて利益段階も良化し、クラブ別経常利益規模分布表の通り、赤字クラブの減少数が7に対し黒字クラブ増加数が6(うち5クラブが20百万円以上40百万円未満の規模)を数えたが、40百万円以上の利益計上クラブは14クラブにて前年度比較では不変であった。

1クラブ当たりの入場料収入はJ1/584百万円(前年度比2.5%増加)J2/195百万円(同35.4%増加)、同じく広告料収入はJ1/1,307百万円(同4.1%増加)J2/409百万円(同0.2%増加)、Jリーグ配分金はJ1/371百万円(同11.1%増加)J2/149百万円(同7.2%増加)であり、各項目にわたって増収を記録した。

クラブ別売上高規模分布表

年度	2002年度(平成14年度)						2003年度(平成15年度)					
	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体	割合
規模												
10億円未満	0	0.0%	7	58.3%	7	25.0%	0	0.0%	6	50.0%	6	22.2%
10億円以上20億円未満	4	25.0%	5	41.7%	9	32.1%	1	6.7%	5	41.7%	6	22.2%
20億円以上30億円未満	6	37.5%	0	0.0%	6	21.4%	9	60.0%	1	8.3%	10	37.0%
30億円以上	6	37.5%	0	0.0%	6	21.4%	5	33.3%	0	0.0%	5	18.5%
合計クラブ数	16	100.0%	12	100.0%	28	100.0%	15	100.0%	12	100.0%	27	100.0%

■売上高ビッグ5クラブ(北から):鹿島、浦和、横浜FM、磐田、名古屋 ※(注)神戸は民営法適用中につき、未決算であり除外(以下同様)

クラブ別経常利益規模分布表

年度	2002年度(平成14年度)						2003年度(平成15年度)					
	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体	割合
規模												
0円未満	5	31.3%	6	50.0%	11	39.3%	1	6.7%	3	25.0%	4	14.8%
1円以上20百万円未満	1	6.3%	2	16.7%	3	10.7%	2	13.3%	2	16.7%	4	14.8%
20百万円以上40百万円未満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	3	33.3%	5	18.5%
40百万円以上	10	62.5%	4	33.3%	14	50.0%	11	73.3%	3	25.0%	14	51.9%
合計クラブ数	16	100.0%	12	100.0%	28	100.0%	15	100.0%	12	100.0%	27	100.0%

■経常利益ビッグ5クラブ(北から):仙台、磐田、名古屋、京都、G大阪

クラブ別純資産規模分布表

年度	2002年度(平成14年度)						22003年度(平成15年度)					
	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体	割合
規模												
0円未満	4	25.0%	4	33.3%	8	28.6%	2	13.3%	4	33.3%	6	22.2%
1円以上50百万円未満	3	18.8%	1	8.3%	4	14.3%	4	26.7%	1	8.3%	5	18.5%
50百万円以上1億円未満	0	0.0%	2	16.7%	2	7.1%	0	0.0%	1	8.3%	1	3.7%
1億円以上2億円未満	2	12.5%	2	16.7%	4	14.3%	2	13.3%	1	8.3%	3	11.1%
2億円以上	7	43.8%	3	25.0%	10	35.7%	7	46.7%	5	41.7%	12	44.4%
合計クラブ数	16	100.0%	12	100.0%	28	100.0%	15	100.0%	12	100.0%	27	100.0%

■純資産ビッグ5クラブ(北から):仙台、鹿島、F東京、磐田、広島

クラブ別借入金規模分布表

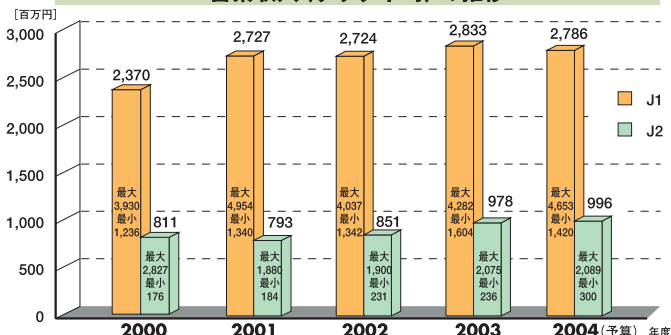
年度	2002年度(平成14年度)						2003年度(平成15年度)					
	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体	割合
規模												
0円以下	7	43.8%	5	41.7%	12	42.9%	6	40.0%	5	41.7%	11	40.7%
1円以上50百万円未満	0	0.0%	2	16.7%	2	7.1%	0	0.0%	2	16.7%	2	7.4%
50百万円以上1億円未満	0	0.0%	1	8.3%	1	3.6%	1	6.7%	3	25.0%	4	14.8%
1億円以上2億円未満	1	6.3%	2	16.7%	3	10.7%	2	13.3%	1	8.3%	3	11.1%
2億円以上5億円未満	2	12.5%	2	16.7%	4	14.3%	3	20.0%	0	0.0%	3	11.1%
5億円以上	6	37.5%	0	0.0%	6	21.4%	3	20.0%	1	8.3%	4	14.8%
合計クラブ数	16	100.0%	12	100.0%	28	100.0%	15	100.0%	12	100.0%	27	100.0%

■無借金クラブ(北から):山形、鹿島、大宮、浦和、F東京、川崎F、清水、磐田、名古屋、広島、福岡

チーム人件費(監督・コーチ・選手)/売上高比率分布表

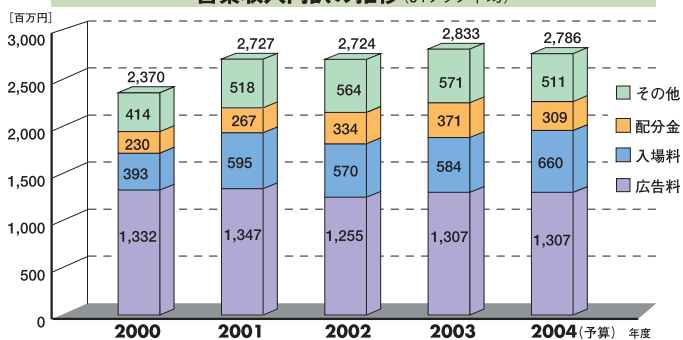
年度	2002年度(平成14年度)						2003年度(平成15年度)					
	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体	割合
人件費比率												
40%以下	3	18.8%	5	41.7%	8	28.6%	3	20.0%	3	25.0%	6	22.2%
40%以上50%以下	7	43.8%	2	16.7%	9	32.1%	10	66.7%	6	50.0%	16	59.3%
50%以上	6	37.5%	5	41.7%	11	39.3%	2	13.3%	3	25.0%	5	18.5%
合計クラブ数	16	100.0%	12	100.0%	28	100.0%	15	100.0%	12	100.0%	27	100.0%
平均比率	46.6%		46.3%		46.6%		43.8%		44.4%		43.9%	

営業収入(クラブ平均)の推移

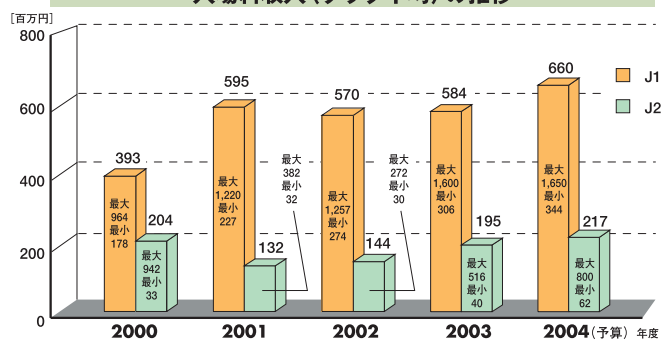


DATA

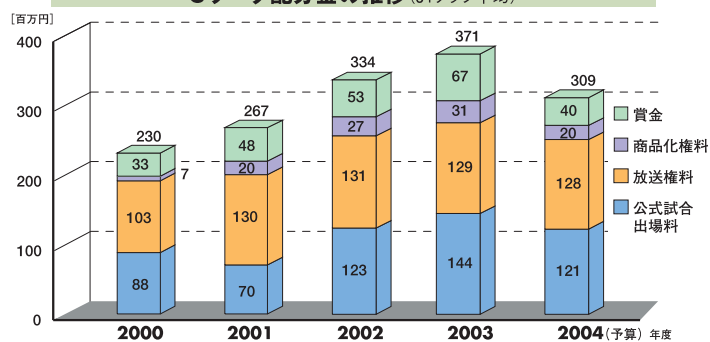
営業収入内訳の推移 (J1クラブ平均)



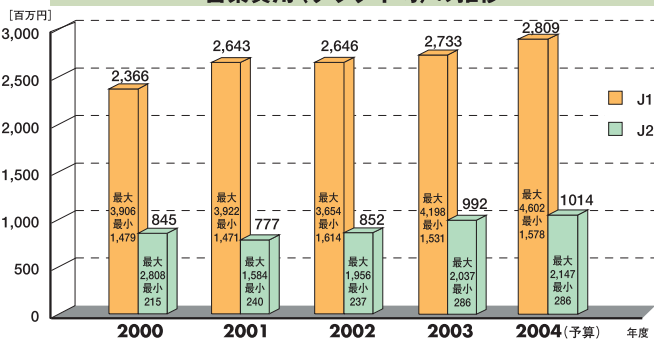
入場料収入 (クラブ平均) の推移



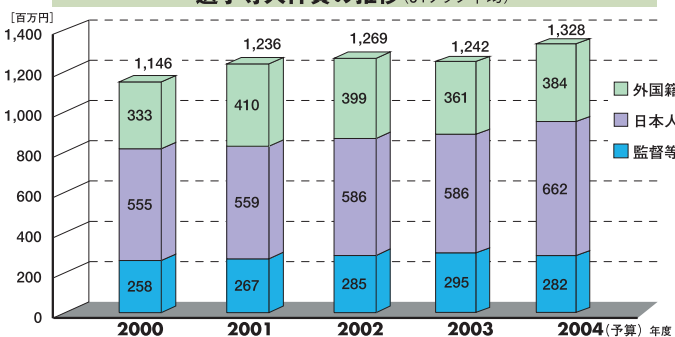
Jリーグ配分金の推移 (J1クラブ平均)



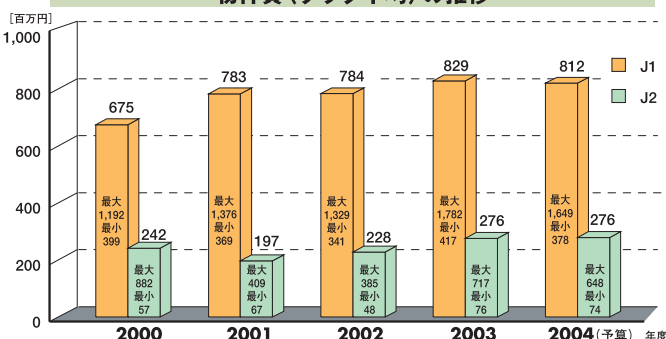
営業費用 (クラブ平均) の推移



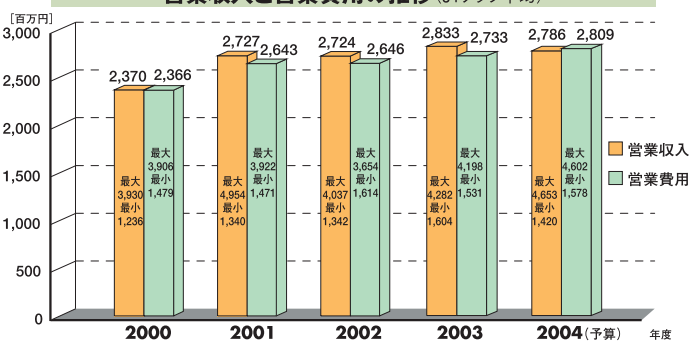
選手等人件費の推移 (J1クラブ平均)



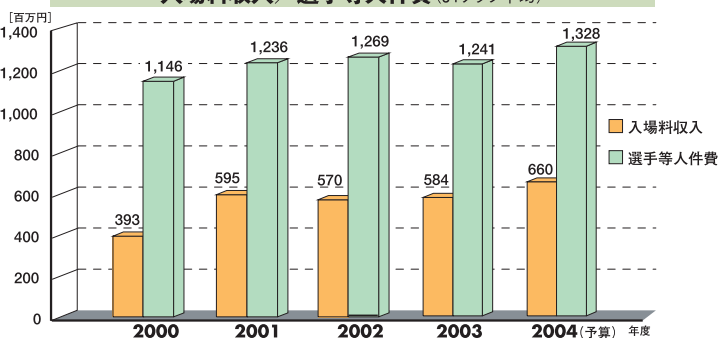
物件費 (クラブ平均) の推移



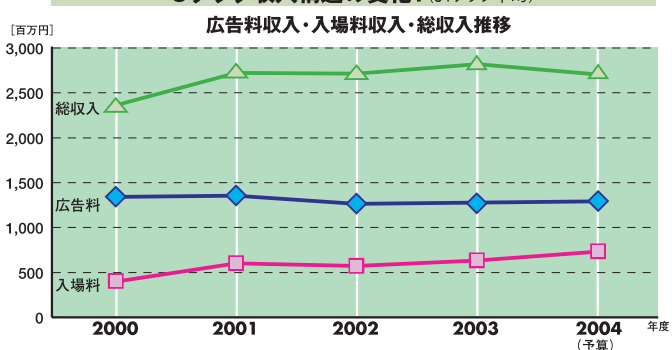
営業収入と営業費用の推移 (J1クラブ平均)



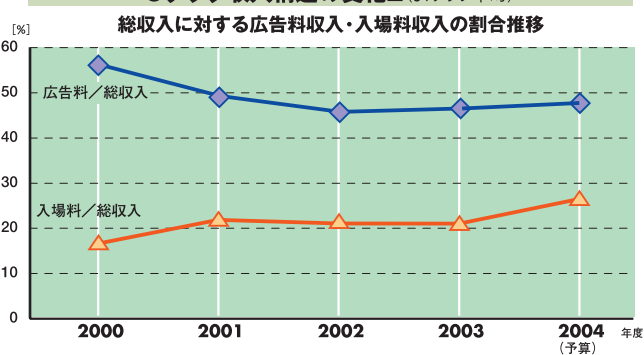
入場料収入／選手等人件費 (J1クラブ平均)



Jクラブ収入構造の変化1 (J1クラブ平均)



Jクラブ収入構造の変化2 (J1クラブ平均)



浦和レッズ 埼玉スタジアム2002を ホームスタジアム追加登録

Jリーグは9月21日に開催した理事会で「埼玉スタジアム2002」を浦和レッズのホームスタジアムとして追加登録することを承認した。なお、従来の浦和レッズホームスタジアムの「さいたま市浦和駒場スタジアム」はこれまでどおりホームスタジアムとして使用する。

■埼玉スタジアム2002

所在地：さいたま市緑区中野田500

主要用途：サッカー専用競技場

収容人数：63,700人

「2005オールスターサッカー」は 大分で開催

Jリーグは9月21日に開催した理事会で、2005年のオールスターサッカーを「大分スポーツ公園総合競技場(ビッグアイ)」で開催することを決定した。

オールスターサッカーは、サッカーの普及、発展のため日本全国で開催しており、九州では初の開催となる。(日時は未定)

■大分スポーツ公園総合競技場(ビッグアイ)

所在地：大分県大分市大字横尾1351

収容人数：43,000人

Jリーグ選手協会と サッカースクールを共催

JリーグはJリーグ選手協会とともに9月12日から10月31日の間、「Jリーグ選手協会・サッカースクール 2004」を開催する。

これは養護施設の小学3～6年生の子供たちを対象に、Jリーガーやボランティアの人々とのふれあいを通して子供たちに心の豊かさ、社会性やチームワークの必要性などを実感してもらうとともに、参加する選手には社会貢献活動の啓発につなげてもらう。関東、東海、関西、九州の4地区で、各地区ともJクラブ所属の選手約10名が参加する。

ジェフユナイテッド市原「第5回 ふれあいフットサル大会」を後援

Jリーグは市原市、千葉市、ジェフユナイテ

ッド市原が共催するジェフユナイテッド市原「第5回 ふれあいフットサル大会」を後援する。

この大会は、フットサルの普及とスポーツ交流を目的として10月17日、30日、11月3日に千葉市、市原市で開催される。競技性だけでなく、サッカーを楽しむことを目的とし、女性や小学生を含んだ中学生以下が参加する。

第7回5人制フラッグフット ボール日本選手権冬季大会 「J FLAG 2005」を後援

Jリーグは、フラッグフットボールジャパンが主催する第7回フラッグフットボール日本選手権冬季大会「J FLAG 2005」を後援する。

この大会は、地域に密着したスポーツの普及や生涯スポーツによる健康な生活の促進、フラッグフットボールの啓蒙などを目的に2005年1月8日から全国7カ所で開催される。Jク

ラブも会場を提供し、112チームが参加する。16チームずつの地域大会を行い、地域代表7チームが決勝大会に進出、決勝戦は2005年2月21日に横浜で行われる。

JFA懲罰基準改定の適用

JFA懲罰基準改定(6月20日付で改定)を2004年8月14日からJリーグ規律委員会における運用に適用した。

新設条項「2. 退場—5主審および副審に対する傷害の意図のない乱暴な行為」に対して、「①1回目の場合：最低4試合の出場停止および罰金」「②繰り返した場合：最低8試合の出場停止および罰金」が科せられることとなった。また、「1. 警告—1同一競技会において、警告累積による出場停止の繰り返しの際に科されていた2試合の出場停止処分および罰金」のうち「罰金」は科されなくなった。

J リーグ 百 年 構 想

各地で芝生開き／サッカー教室

「Jリーグ百年構想」の象徴ともいえる芝生の校庭が各地で完成し、Mr. ピッチも芝生開きのイベントなどに参加した。

9月1日(水)、大阪市内で初めての芝生の校庭が大阪市立清江小学校に完成し完成披露会が開催された。

9月9日(木)には静岡県・磐田市立小中学校校庭芝生化のモデル校となった向笠小学校の「芝生開き」が開催された。ジュビロ磐田から中山雅史選手、服部年宏選手、山西尊裕選手を迎え、児童は芝生の感触を体験したり、選手たちとサッカーを楽しんだ。また、同市立東部小学校にも1700

平方メートルの芝生の校庭が完成した。

9月24日(金)には横浜市立高田東小学校に完成した芝生の校庭で、井原正巳コーチによる「Jリーグ百年構想サッカー教室」を開催。スクール終了後、Jリーグ百年構想パートナーの朝日新聞社の協力により子供たちに号外が配られた。



向笠小学校の「芝生開き」

全国ホームタウンサミットin川崎 開催

9月25日(土)と26日(日)、川崎市ソリッドスクエア・ホール他で「第6回全国ホームタウンサミットin川崎」が開催された。これは、全国のJクラブホームタウンから、自治体、後援会、青年会議所、ボランティア等支援団体関係者らが参加し、ホームタウンとの関わり方、クラブ支援のあり方について議論を交わし交流を深めることを目的とし

て開催されているもので、昨年の仙台に続き、今回で6回目。

当日は全国から約150名が参加。冒頭、Jリーグ鈴木昌チェアマンが「Jリーグ百年構想とホームタウン活動の実践」について講演したほか、パネルディスカッションやテーマ別の分科会など活発な意見が交わされた。

USスポーツビズ2004

Jリーグ 企画部 佐野毅彦

第3回

ゲーム・デー・エクスペリエンス

～アミューズメントパーク化するスタジアム～

試合を観るためにスタジアムを訪れるアメリカ人はほんの一握りである。スポーツビジネスの世界で成功するため(あるいは生き残るため)には、充実した売店、楽しいイベント、気の利いた演出等は欠かせない。問われるのは総合的なエンターテインメントとしての質。これは、アメリカのスポーツビジネスに携わる者が持つ共通認識である。

1990年代以降、アメリカはスポーツ施設の建設・改修ラッシュに沸いた。MLB(メジャーリーグベースボール)ボルティモア・オリオールズの本拠地カムデン・ヤーズから始まったうねりは、4大メジャー(ベースボール、アメフト、バスケットボール、アイスホッケー)を瞬刻間に覆い、マイナーリーグや大学にまで波及した。どの建設・改修プロジェクトでも、充実したアメニティ施設は絶対条件であった。

MLBナショナル・リーグ東地区のアトランタ・ブレーブスとニューヨーク・メッツは対照的なスタジアムを本拠としている。楽しいスタジアム＝アリーナ観戦体験が人生をどれだけ有意義なものにするか。少しオーバーな言い方かもしれないが、ブレーブスとメッツの試合観戦はこんなことを考えさせずにはおかない。

ブレーブスの本拠地ターナー・フィールドは、アトランタ・オリンピック(1996年開催)のメイン会場を改修して造られた。正面ゲートから一步足を踏み入ると、そこはボールパークというよりも、アミューズメントパークである。品揃え豊富なクラブショップ、広いコンコース、充実した売店は言うに及ばず、オープンカフェ風のレストランが外野席の一角を占め、子供向けのアトラクション・スポットもいろいろと用意されている。わくわくする、楽しいボールパークである。

「新スタジアムは、お祭りの場となるように設計されている。試合の勝敗に関係なく、家族皆が楽しいひと時を過ごせるような、そんなスタジアムとなるであろう。もちろん、ビジネスであるからには、お財布の最後の1ドルまで使ってもらえるようなスタジアムを目指している」

アトランタ・オリンピックが開催される数年前、ブレーブス関係者はこんな話をしていた。

メッツの本拠地シェイ・スタジアムが完成したのは1964年。スタジアム内に子供向けアトラ

クション・スポットやレストランなどない。席にはカップホルダーさえない。観客を楽しませるためメッツは最大限の努力をしていることは間違いないが、ベースボールを観るための老朽化したスタジアムでは限界がある。ターナー・フィールドで味わえるような体験をここで得ることはできない。

日本は貧しい国ではない。楽しく快適なスタジアムとスポーツ観戦のためだけに造られたス



ターナー・フィールドの外野席レストラン

スタジアム。求められるのはどちらのスタジアムであろうか。日本のスタジアムはほとんどが公共施設である。公共施設にターナー・フィールドでの体験を求めるのは難しいのであろうか。

第4回

子供の心をつかめ

～ユース・マーケティング～

スポーツの種類を問わず、アメリカのプロスポーツチームにとって絶対に外してはいけないマーケットはユース・マーケットである。ここでいうユースとは、広く子供を意味する。

「子供のころの選択は、その子にとっても、親にとっても生涯にわたる選択になることが多い」。NFL(ナショナル・フットボール・リーグ)の国際部門NFLインターナショナルの副社長、ゴードン・スミートン氏はこう分析する。

「だからといって、子供だけをターゲットにすれば良い、というものでもない。母親は家庭における意思決定者であることが多いし、父親は家庭におけるノウハウ提供者であることが多い。つまり、子供と親の両方とコミュニケーションを取る必要がある」

親が子供と遊ぶとき、親が慣れ親しんだスポーツを選ぶのはごく普通のことであろう。子供向けのスポーツ・イベントを企画したとして、連れて行くのは親である。将を射んと欲すればまず馬を射よ、ということわざもある。

MLS(メジャーリーグサッカー)のリーグ事務局にFan Developmentという、ユース・マーケティングを専門に行う部署がある。MLSは10チーム構成のリーグなので10のマーケット(地域)しかカバーしていない。そこで、Fan Developmentは全米各地のさまざまなサッカーの統括団体と連携してMLSのユース・プログラムを展開している。

「MLSのユース・プログラムには3つの要素、

Education、Inspiration、そしてConnectionが含まれる。まず、子供たちにMLSの選手やチームを知ってもらい、イベントで選手とじかに会うことで子供たちは感激する。そして、子供たちとMLSとの間に絆が生まれる」

ディレクターのライト氏はこう説明する。日本では普及活動を慈善活動ととらえる風潮もあるが、間違いなく投資活動である。

最近の子供たちはとても賢く、自分たちがマーケティング活動の対象であることに気付いている。そんな大人たちのこん胆を見透かしているのか、ベースボールやアメフトという伝統的スポーツにそっぽを向いて、エクストリーム・スポーツ(スケートボードやローラースケートなど)に熱中するティーンエージャーは多い。「でも、ある程度の年齢になれば幼少のころ親しんだスポーツに戻ってくる。スケートボードに熱中している中年なんて見たことないし、想像しにくい。だからこそ、子供へのアプローチはとても大切」。スミートン氏はこう説明する。

スポーツ・マーケティングの悩みは尽きない。スポーツをしない子供たちが増えているのである。運動不足だけが原因ではないだろうが、子供の肥満化は社会問題になっている。スポーツ以外にも子供たちの興味をひくものは世の中に溢れている。まず「スポーツをしよう、スポーツをしたい」と思ってもらうこと。昔と今ではマーケティング活動の出発点は異なるようである。

FIFAとドーピング

前Jリーグドーピングコントロール委員会委員長 ◎ 大畠 襄 (おおはた のぞむ)

8月に開催されたアテネ五輪は、かつてないほどドーピングコントロールに対する関心が高まった大会となりました。2000年のシドニー五輪の直前に、世界アンチドーピング機構(WADA)という国際機関が創設され、昨年3月には、「WADAコード」というドーピングコントロールの初の世界統一規定を策定しました。アテネ五輪のドーピングコントロールは、このWADAコードを順守することで成り立っていました。

サッカーの世界では、国際サッカー連盟(FIFA)が、1966年のワールドカップ・イングランド大会からドーピングコントロールを導入しています。1995年から始まったJリーグのドーピングコントロールに関する約束事は、FIFAのこのDoping Control Regulationsが元となっており、以後それに準じて改定を重ねてきています。

FIFAは、2つの理由から当初このWADAコードを批准しなかったただ1つの国際競技団体でした。WADAコードには、禁止物質及び禁止方法に関する資格剥奪措置の賦課の項目があり、スポーツの種類、プロ・アマの別、薬物の種類など問わず一律に、1回目の違反に対しては2年間の資格剥奪、2回目の違反で一生にわたる資格剥奪と規定されています。これに対しFIFAは、このような自動的処分ではなく、事例ごとに判断し処分を決定する



調印するロゲIOC、ブラッターFIFA、バウンドWADAの各会長
(左から=FIFA創立100周年記念総会にて)

ことが必要だとしました。これが反対の第1の理由です。ちなみに、Jリーグドーピング禁止規定では、第5条②の制裁の種類として、(1)譴責(2)一定期間の出場停止(3)一定期間の資格停止(4)無期限の資格停止と、違反によって4種類のペナルティーがあり併科することもできるとあります。

またFIFAはサッカー選手へのドーピングコントロールをFIFAが独自に育てた医師で行っており、WADAのドーピングコントロールオフ

PROFILE

1930年東京生まれ。54年東京慈恵会医科大学卒業。同大形成外科教授、付属柏病院長、健康医学センター長などを歴任。現FIFAスポーツ医学委員会委員。AFC医事委員長、日本サッカー協会スポーツ医学委員会委員長を歴任。1995年～2004年3月Jリーグドーピングコントロール委員会委員長

イサーには関与させませんでした。WADAでは医師と規定せず、薬剤師、スポーツ科学者なども含まれていたからです。これが第2の理由です。

すでに、1999年10月6日に開かれたスポーツ医学委員会でFIFAは、①FIFA公認のドーピング担当のメディカルオフィサーを各大陸連盟で養成すること②これらの養成したメディカルオフィサーを集めて世界的なネットワークを構築するということを決定しました。その結果、現在では140名以上のFIFAのメディカルオフィサーが、ワールドカップや多くのサッカーの国際大会で活躍しています。

これらFIFAの活動に対するWADAの理解は徐々に深まり、WADAのディック・パウンド会長は次のように述べています。

「FIFAが養成したメディカルオフィサーの世界的ネットワークの技術、ロジスティック、経済面の利点を活用する機会は、我々全員にとって有益な状況を生み出すものだ」

今年の5月21日、パリ・ルーブル美術館地下の大講堂で開かれたFIFA創立100周年記念総会においてFIFAは、99年のスポーツ医学委員会が決定した前出の2項目をWADAの了解事項とした上でWADAの世界アンチドーピングコードに参加することを合意し、WADAとの間で調印式が行われました。

合意への長い道のりでした。

29200名様に
総額

1億9600万円

プレゼント!

実施中!!

Wチャンス
キャンペーン

FOR ALL SPORTS OF JAPAN

くわしくは店頭チラシまたは
toto公式サイト

http://www.toto-dream.comまで



写真提供: © J.LEAGUE PHOTOS
大畠 襄



「Jリーグニュース」は100%
再生紙を使用しています。